

第 1 回 匝瑳市食育推進協議会 会議録

会議の概要

開催日時	平成 23 年 6 月 28 日（火）13 時 30 分から 15 時 30 分まで	
開催場所	匝瑳市民ふれあいセンター 2 階視聴覚室	
出席者	委 員	半田美智子、平山さとみ、大木すみ江、小林淑子、大木秀子 越川八代枝、渡邊悦徳、林暁男、南俊男、伊橋清二、椿隆夫 吉川昇、小林正幸
	事務局	作佐部勝美（産業振興課 統括） 鈴木美穂（産業振興課 副主査）
欠席委員	福島俊之	
議 題	(1) 会長及び副会長の選出について (2) 市民意識調査の項目について (3) 今後のスケジュールについて (4) その他	
配付資料	会次第 資料 匝瑳市食育推進協議会規則 資料 匝瑳市食育推進協議会委員名簿 資料 匝瑳市食育推進協議会専門部会員名簿 資料 （仮称）匝瑳市食育推進計画策定の流れ 資料 食育推進計画策定スケジュール 資料 福祉ネットワーク（web サイトを印刷したもの） 資料 食育推進計画策定のためのアンケート調査（案）一般市民用 資料 食育に関するアンケート調査（案）小学 5・中学 2 年生用	

議事要旨

発言者	発言要旨
事務局	第 1 回 匝瑳市食育推進協議会 開会の挨拶
市長	挨拶
事務局	議題（1）会長及び副会長の選出
委員	今までの活動を勘案するなかで、大木秀子さんを会長に、大木すみ江さんを副会長に推薦する。
事務局	他に推薦あるか。（なし） 小林委員の案でよいか。
委員一同	（承認）
会長	挨拶。
副会長	挨拶。
会長	議題（2）市民意識調査の項目について、事務局から。

発言者	発言要旨
事務局	資料 食育推進計画策定のためのアンケート調査（案）一般市民用 資料 食育に関するアンケート調査（案）小学5・中学2年生用 を基に説明。
会長	意見等あるか。
委員	アンケートの内容は、県等に基づいたスタンダードなものなのか、 匝瑳市独自で作成したものか。
事務局	はじめに委託業者でたたき台を作成してもらい、その後事務局で付 け加えた。その後、専門部会で検討している
副会長	設問数が多い。20分で終わらなかった。500名に配布したら7割返 ってくればいいと思う。設問の内容はわかるが、複数回答の選択数は 妥当か。
会長	県で行ったときはもっと多かった。今回の設問数は少ない方だ。
事務局	委託業者は県内でも食育推進計画をつくっている。その辺の状況も 話してほしい。
委託業者	食育の範囲は広い。なので、どうしても設問数が増えてしまう。匝 瑳市のスタートラインの数値をつくらなければいけないこともあり、 国や県と比較できる設問、匝瑳市独自の設問が必要でこのような量に なった。だいたい16ページで40問以下であれば、ある程度の回収率 が見込まれる。また、自由記述欄を減らし、回収率を上げていく。
会長	他にあるか。（なし） これでよいか。
委員一同	（承認）
会長	議題（3）今後のスケジュールについて、事務局から。
事務局	資料 食育推進計画策定スケジュールに基づいて説明。
会長	意見等あるか。
委員	各委員は「この程度の関わりしか持てないのか」という思いがある かもしれないが、10月の前段で食育の骨子ができた段階で資料提供 する。資料に対する意見は会議を開くまでもなくその都度うけたまわ る。その辺いかがか。
委託業者	意見は事務局を通していただくかたちになるので、その意見を私ど もと事務局の方で協議させていただいて反映させていくかたちにな ると思われる。

発言者	発言要旨
事務局	アンケート調査結果が出て、それがベースになって、それに計画を載せ、匝瑳市の特徴を出した計画をつくっていくことになる。まずは調査結果で匝瑳市の現状がどうなのかに基づいて骨子を作り、それを委託業者から事務局に送っていただいて、その段階で委員のみなさまに配布して、意見をいただくというかたちをとっていきたい。 多少の時間のズレは出てくるが、専門部会で検討し、みなさまに提示し、協議会を開くかたちになる。
会長	振り返ってみれば、5年前から始まった県の食育の計画から関わってきたが、県民や市民が見て納得するようなものを作らないといけないと思う。県民や市民が計画を見てわかる文章でやっていく必要がある。委員のみなさまが「こうしたい」「ああしたい」というのを十分に考えてやっていただきたい。
委員	スケジュールは大変だが、現場や団体へのヒアリングの予定はあるか。
事務局	庁内では報告というかたちでやるつもりだ。
委員	庁内の声は専門部会で反映されると思われる。ただ、現場に出て担当と話し合った上で計画を作っていく部分もあるかと思ったのだが。
事務局	専門部会に委員が出ているので、職場の意見を集約させて出席してもらう。
委員	食育は、行政が中心となったものと民間が中心となったものとを比べると、地産地消とか郷土料理とか「食べる」というところまで細かくやっているが、その後の「育」の部分がほとんどない。民間はもっと「育」の部分がある。「育」の部分に大きな問題があるという認識なので、その辺のボリュームを組み込んでいただきたい。
副会長	地産地消のことで、野菜の学校給食が日本一を取った。知っているようで知らないことも多いと感じた。骨子を決める時点でみんな意見が言えるように、健康管理課と話して、事務局に話を持っていくという方がいいか。
事務局	専門部会員と話をしていただければ、部会員を通じて事務局に伝わるので、そういうかたちをとっていただいてもかまわない。

発言者	発言要旨
委員	計画を作るときには、策定した計画を受けての行動が大事だ。県の食育計画は4つの柱があって、 親から子に食をつなげていくという「親から子につなぐ生命（いのち）」 地域の食文化を大切にしていき次の世代につないでいく「人から人へつなぐ文化」 生産者の農家と消費者のつながりや想いをつなげる「作り手から買い手へつなぐ食べ物」 組織やいろいろな役割をもった人のつながりが一体となって大きな動きとなる「わたし、あなた、みんなへつなぐ輪」 となっている。 なので、柱を立ち上げていく必要がある。食育は一つの部署がやるものではない。ユッケによる食中毒の問題でも肉屋が「あの値段で生肉を食べられると考えるほうがおかしい」と言っている。若者が「店が出すのだから食べられるはずだ」と思うこと自体が、そもそも食育が必要とされている時代だということを意味する。こういうことを伝えていくのは一個人でやっていくのは難しいが、計画や組織で考えていくことで、匝瑳市の考え方が県や他市町村に広がっていかないとはいけないと思う。
事務局	柱をつくっていききたい。実践編もつくる予定なので、3～4年後を考えた中で目標を設定し、実践編でそれを行っていききたい。
会長	その他あるか。 今後のスケジュールは記載の通りでいいか。
委員一同	(承認)
会長	議題（4）その他について、何かあるか。
事務局	アンケートの補足だが、字句の統一がはかれてないところがあるので、その辺は事務局の方で適宜修正させていただく。
会長	本日は以上です。ありがとうございました。
	閉会